

東京都交友会 秋の大会 一般公開講座

「後藤新平の生涯」

講師 佐藤 彰博 氏

(岩手県奥州市立後藤新平記念館館長)



ただ今、ご紹介いただきました後藤新平の関係で、後藤新平の実施した「日清戦争帰還兵検疫事業」が、マスコミに随分取り上げられたのですが、記念館そのものの入館者はまったくなく、入館状況でした。講演等にお呼ばれしても、ほとんどキャンセルという形になっ

ておりまして、今回の東京行きもどうなるのかなど、実は心配しておりました。会場が、名にし負う「精養軒」ということで、私の中では、物語の中の世界であつたこの場所に、是非来たいものだなという思いはずっと持っておりました。実現できて大変幸せでございます。

それではさっそく始めさせていただきます。岩手県で一番発行部数が多い地元新聞が、「岩手日報」です。その岩手日報で、三十年ほど前、岩手県の偉人の漫画を作りました。未だに廃版にならずにずっと続いているのは、石川啄木と宮沢賢治です。皆さんもこの名前を聞けば、「なるほど」と頷いていただけると思います。ところが、昨

年、この三十年前に作られた漫画本の復刻本が二冊出てきました。一冊は、原敬です。総裁になって、去年百年でした。日本の総理大臣ということで復刻されたのは頷けます。加えてもう一冊が、後藤新平です。私たちが監修をさせていただきました。

後藤新平。実は、昨年度、大変注目されました。岩手県の魅力を発信する「岩手県偉人局」シリーズが、「原敬」と「田中館愛橘」を紹介する動画を配信しました。そして第三弾が、昨年度の後藤新平です。今でも、YouTubeで「岩手県偉人局」を検索すると出てまいります。どうぞ、後でご覧になっていただければと思います。

また、私達職員、記念館もマスコミに引っ張りだこでした。県内外のメディアはもちろんのこと、NHKのBSプレミアムやBS-TBSでの放送もありました。評判が良くて再放送までされました。

要は、全世界を席巻しているコロナの関係で、水際で食い止めた後藤新平の「日

清戦争帰還兵への検疫事業」が大変注目されたということとです。後藤新平は注目されませんが、お客さんは来ないという、なかなか珍しいパターンで去年はずっと推移して、やっと最近十一月になってから、観光バスが来るようになりました。

さて、今日は、この後藤新平の誕生から、お話し申し上げたいと思っております。今、実は、後藤新平記念館で「東京市長」時代の企画展をやっています。「東京市長」というとまさにここは本丸になってしまふのですが、後で十五分ほどのビデオバージョンがありますので、皆さんが昼食をお摂りになつている間に、それをご覧になっていただきたいと思ひます。

それでは、新平の誕生からお話し申し上げます。後藤新平は一八五七年生まれというところで、明治維新を十一歳で迎えています。お父さんは水沢の武士です。お母さんは、留守家という御殿様のご典医のお嬢様です。なんとこのお母さん九十九歳ま

で長生きしています。家禄は十石です。お殿様の留守家の石高は、一万六千石です。元々は、仙台にお城があつたのですが、小田原征伐の関係で、家禄が減らされていきます。お城をどんどん巡り歩いて、最終的に水沢に落ち着きます。当初十八万石あつたのが、一万六千石となつてしまいました。家来があまり離れることなく八百人。水沢一万六千石の地で八百人です。

お殿様の一族が、この一万六千石の半分取っちゃうんです。残りの半分を家臣がとる。だから、残り八千石。八千石で八百人です。ちょうど割り算して十石。後藤新平の父親の家禄も十石です。今と単純に比べるわけにはいかないと思うのですが、産直に行きまして値段を調べてみました。十キロで五千円だと、随分いいお米です。それを基にして計算してみたら、十石で、だいたい七十五万円ぐらいです。国民年金ぐらいでしょうか。これで一家全員を養うということです。したがって水沢の武士は非常に貧しかったので

は非常に貧しかったので

す。八百人も、そんな人達がいるのです。だから内職ばかりです。草鞋を作ったり、蓆を作ったり、草履を作ったり。ちなみに、お隣の一関に田村藩というのがあります。この一関の田村藩というのは、三万石です。三万石で家臣が二百人です。禄高が倍、家臣は四分の一。そうすると、八倍の差が出てくるのです。それだったらゆとりで生きていけるなと思います。水沢がいかにか貧しかったかというのが、よくわかると思います。その貧しさで内職ばかりしているのですが、学識のあるところは、寺子屋をやった糊口をしのぎます。後藤新平の家も斎藤実の家も寺子屋をやっています。

新平が生まれたのは、ペリーが来航して三年目。激動の時代です。大河ドラマで、一番盛り上がる時代に生まれています。ここ水沢は、この水沢城を中心とした区画整理をしています。後藤新平は、このお城のそばの吉小路というところで生まれています。この手前の楕円の方に上級武士がい

ますが、中級、下級の武士は吉小路、こちらの方で後藤新平は生まれています。この吉小路というのは、鹿児島の鍛冶町と並び称されるほど、歴史に残る人がいっぱい出ていることで有名になっていきます。例えば、高野長英。「蛮社の獄」で捕まって、逃亡生活の末、江戸に戻っていたところを捕まって亡くなってしまいました。実は、高野長英は後藤新平の本家筋です。この高野長英が亡くなってから、七年後に後藤新平が生まれています。本家筋にあたる人だから、後藤新平は大逆罪を犯した高野長英であっても、「大叔父」と言って尊敬していたようです。後藤新平の旧宅は今でも吉小路にあります。無料で開放されています。後藤新平より一歳下の斎藤實は、後に海軍大将、総理大臣になります。同じ吉小路生まれですから、幼馴染です。でも、後藤新平は、ずいぶんきかなくて、同じ路地で会えば、「ここは通さないぞ」というぐらいのガキ大将だったようです。後藤新平に対して、斎藤は

非常に静かだったと言われている。水沢には、先人記念館が三つあるんです。高野長英記念館、後藤新平記念館、そして斎藤實記念館。それぞれ巡り歩くコースもあり、皆さんに体験なさっていただいております。もう一人、少し時代を下つてこちらの方に来るんですけれども、「椎名悦三郎」。同じ吉小路で生まれた政治家です。後藤新平のお姉さんで「初勢」さんという方がいるんですけれども、このお姉さんの中に子どもがいなくて、「身内の中から養子に欲しい。できれば、優秀なのを」と話していたら、身内から東京帝大に入ったのが出てきて、養子にもらったのが椎名悦三郎です。後藤新平とは、叔父さんと甥っ子の関係になつていきます。しまいには、皆さんもご存知だと思いますが、三木と福田、どっちを総理にするかという「椎名裁定」で大変有名になりました。副総理までいっています。この写真、すごいことに福田、大平、三木、中曽根を侍らせながら、中

非常に静かだったと言われている。水沢には、先人記念館が三つあるんです。高野長英記念館、後藤新平記念館、そして斎藤實記念館。それぞれ巡り歩くコースもあり、皆さんに体験なさっていただいております。もう一人、少し時代を下つてこちらの方に来るんですけれども、「椎名悦三郎」。同じ吉小路で生まれた政治家です。後藤新平のお姉さんで「初勢」さんという方がいるんですけれども、このお姉さんの中に子どもがいなくて、「身内の中から養子に欲しい。できれば、優秀なのを」と話していたら、身内から東京帝大に入ったのが出てきて、養子にもらったのが椎名悦三郎です。後藤新平とは、叔父さんと甥っ子の関係になつていきます。しまいには、皆さんもご存知だと思いますが、三木と福田、どっちを総理にするかという「椎名裁定」で大変有名になりました。副総理までいっています。この写真、すごいことに福田、大平、三木、中

非常に静かだったと言われている。水沢には、先人記念館が三つあるんです。高野長英記念館、後藤新平記念館、そして斎藤實記念館。それぞれ巡り歩くコースもあり、皆さんに体験なさっていただいております。もう一人、少し時代を下つてこちらの方に来るんですけれども、「椎名悦三郎」。同じ吉小路で生まれた政治家です。後藤新平のお姉さんで「初勢」さんという方がいるんですけれども、このお姉さんの中に子どもがいなくて、「身内の中から養子に欲しい。できれば、優秀なのを」と話していたら、身内から東京帝大に入ったのが出てきて、養子にもらったのが椎名悦三郎です。後藤新平とは、叔父さんと甥っ子の関係になつていきます。しまいには、皆さんもご存知だと思いますが、三木と福田、どっちを総理にするかという「椎名裁定」で大変有名になりました。副総理までいっています。この写真、すごいことに福田、大平、三木、中

非常に静かだったと言われている。水沢には、先人記念館が三つあるんです。高野長英記念館、後藤新平記念館、そして斎藤實記念館。それぞれ巡り歩くコースもあり、皆さんに体験なさっていただいております。もう一人、少し時代を下つてこちらの方に来るんですけれども、「椎名悦三郎」。同じ吉小路で生まれた政治家です。後藤新平のお姉さんで「初勢」さんという方がいるんですけれども、このお姉さんの中に子どもがいなくて、「身内の中から養子に欲しい。できれば、優秀なのを」と話していたら、身内から東京帝大に入ったのが出てきて、養子にもらったのが椎名悦三郎です。後藤新平とは、叔父さんと甥っ子の関係になつていきます。しまいには、皆さんもご存知だと思いますが、三木と福田、どっちを総理にするかという「椎名裁定」で大変有名になりました。副総理までいっています。この写真、すごいことに福田、大平、三木、中

非常に静かだったと言われている。水沢には、先人記念館が三つあるんです。高野長英記念館、後藤新平記念館、そして斎藤實記念館。それぞれ巡り歩くコースもあり、皆さんに体験なさっていただいております。もう一人、少し時代を下つてこちらの方に来るんですけれども、「椎名悦三郎」。同じ吉小路で生まれた政治家です。後藤新平のお姉さんで「初勢」さんという方がいるんですけれども、このお姉さんの中に子どもがいなくて、「身内の中から養子に欲しい。できれば、優秀なのを」と話していたら、身内から東京帝大に入ったのが出てきて、養子にもらったのが椎名悦三郎です。後藤新平とは、叔父さんと甥っ子の関係になつていきます。しまいには、皆さんもご存知だと思いますが、三木と福田、どっちを総理にするかという「椎名裁定」で大変有名になりました。副総理までいっています。この写真、すごいことに福田、大平、三木、中

非常に静かだったと言われている。水沢には、先人記念館が三つあるんです。高野長英記念館、後藤新平記念館、そして斎藤實記念館。それぞれ巡り歩くコースもあり、皆さんに体験なさっていただいております。もう一人、少し時代を下つてこちらの方に来るんですけれども、「椎名悦三郎」。同じ吉小路で生まれた政治家です。後藤新平のお姉さんで「初勢」さんという方がいるんですけれども、このお姉さんの中に子どもがいなくて、「身内の中から養子に欲しい。できれば、優秀なのを」と話していたら、身内から東京帝大に入ったのが出てきて、養子にもらったのが椎名悦三郎です。後藤新平とは、叔父さんと甥っ子の関係になつていきます。しまいには、皆さんもご存知だと思いますが、三木と福田、どっちを総理にするかという「椎名裁定」で大変有名になりました。副総理までいっています。この写真、すごいことに福田、大平、三木、中

非常に静かだったと言われている。水沢には、先人記念館が三つあるんです。高野長英記念館、後藤新平記念館、そして斎藤實記念館。それぞれ巡り歩くコースもあり、皆さんに体験なさっていただいております。もう一人、少し時代を下つてこちらの方に来るんですけれども、「椎名悦三郎」。同じ吉小路で生まれた政治家です。後藤新平のお姉さんで「初勢」さんという方がいるんですけれども、このお姉さんの中に子どもがいなくて、「身内の中から養子に欲しい。できれば、優秀なのを」と話していたら、身内から東京帝大に入ったのが出てきて、養子にもらったのが椎名悦三郎です。後藤新平とは、叔父さんと甥っ子の関係になつていきます。しまいには、皆さんもご存知だと思いますが、三木と福田、どっちを総理にするかという「椎名裁定」で大変有名になりました。副総理までいっています。この写真、すごいことに福田、大平、三木、中

え、私でも同じ東北の青森の一部の言葉はさっぱりわかりません。今は全国の情報がつながっていますから大概の意味は分かる。しかし当時はわかるわけがない。そこでどんな一計を案じたかという、地元の子ども達を数人、給仕として採用しようじゃないかと折り合いをつけます。

優秀な子ども達として選ばれた中に、後藤新平や齋藤實が入っています。後藤新平が給仕として入っていったのは、大参事の安場保和のところ。副知事級です。この安場保和が後藤新平を見て、「これは将来

モノになるやつだ」と思ったわけ。副知事級です。副知事級から、お客さんがいっぱい来て忙しい。勉強する時間も持てない。だから自分の部下の阿川光裕に新平を託します。この二人との出会いが、後藤新平のそれから

の将来を大きく動かしていくことになりました。安場保和はその後、福島県の県令として異動します。部下の阿川も一緒に行き、後藤新平のお父さんに声を

かけます。「福島に今度医学校を作ったから、そこへ行って勉強させないか。学資だけは出す」と。甘い蜜のように学費を出してやるからと言われるわけです。新平も、勉強させていただくのであれば、ぜひ行きたいと思うのです。話がまとまって、須賀川の医学校に行つて勉強を始めます。後藤新平、理数系の頭を持っていたのでしよう。それまで漢詩とか、そういうのばかりに没頭していたのが、初めて、数学とか化学とか、生物とか

というものに触れて、ものすごい勢いで、「火の出るような勉強」をします。

今、子ども達が来館した時、「火の出るような勉強をあなた達したことありますか？」と聞きます。「あのねえ、後藤新平はねえ、天井に梁があつて、そこに荒縄を結んでぶら下げて、腰に巻きつける。眠くなつて身体が倒れると縄で締め付けられて眼を覚まして、また勉強したんです。あなた達も、高校入試、大学、就職試験等で火の出るような勉強することが出て来るだ

ろうね」と言うような話をしながら、「火の出るような勉強」のお話をします。

そのような勢いで勉強して、飛び級に次ぐ飛び級で資格を取っていきます。代診ができるぐらいの資格を取っていきます。そして、安場保和が今度は愛知県の県令として異動します。そこには須賀川以上の立派な病院があるのです。近代的な施設、なおかつオーソリア人の教師までいる。そこに給料は安いけど来てみないかって誘われるわけです。後藤新平は、義理もあるけど、そういう環境で自分は勉強したいという思いもあつて、そこに行くことになりました。

そこでまた「火の出るような勉強」をして、この外国人講師のローレツにすっかり惚れこまれてしまつて、結局は二十四歳の時に、この愛知県の病院長、そして学校長になります。二十四歳です。如何に火の出るような勉強をしたかというの、このことでもわかるかと思えます。今、お医者さんになろうとすると、卒業するだけで、その年に

なるじゃないですか。

この愛知県病院時代のエピソードが、いくつかあるんですけども、その中のひとつに、板垣退助が岐阜で暴漢に襲われたという事件がありました。その時に、呼ばれて治療しに行つたのが後藤新平だったので。板垣退助は、「板垣死すとも自由は死せず」と、もう自分は死ぬ覚悟をしていますが。ところが岐阜県でそういう事件が起きたので、取り巻く人達は、いい医者がどこかにいないのか探したわけです。そこで、「隣の愛知県に、名前が売れてきた新鋭の医者がいる。あれを呼べ。」ということになつて、後藤新平に声がかつた。ところが、この時、県を跨いで往診するのに県知事の許可が必要だったのですが、許可が下りなかつた。板垣退助は自由党の総裁です。自由党の総裁という

と安倍さんとか菅さんとか、今の岸田さんとか、自民党のルーツですね。しかし、当時は政権与党じゃなかつたんです。許可は下りなかつた。後藤新平はク

ビになるのを覚悟して、「いや命の問題だ、政党とかどうのこうのという問題じゃない」ということで、無視して人力車で駆けつけたそうです。クビになる覚悟でいたんですけれども、実はその板垣退助のところにお見舞いの電報が届いたそうです。皇室から。後藤新平はクビになるのを覚悟して帰つただけでも、「皇室から、板垣退助に対してお見舞いの電報が届いた」と言う情報は、もう走っているわけです。それを聞いて、何も言われなかつたというエピソードもあるんです。

この愛知から内務省衛生局へと上京した年に、結婚もしています。奥様は和子さんという方です。その奥様、実は、さつきの安場保和の娘さんです。それほど見込んだということ。下手すりゃ、「賊軍だ、朝敵だ」と言われるような人間のところに、自分の娘を嫁として送り出したのです。それほど、後藤新平を見込んだのだろうなというふうに思います。

後藤新平、投書癖といい



ますか、意見書を提言する局面がいつぱいありました。「健康警察医官設置の建白書」。要は衛生に関するものです。これが、県を通り越して、内務省衛生局にまで届きます。当時の衛生局長の長與専齋っていう人は、「衛生」という言葉を生み出した人ですから、衛生というものにもすごく関心を持ち、政策として推進しようと思っていた人です。「愛知県病院にそこまで考えている奴がいる。あいつを呼べ。」ということ、内務省の衛生局と呼ばれます。

いよいよ中央行政に入っていきます。内務省の衛生局に入っていきます。後藤新平は須賀川医学学校卒です。後藤新平、何をしたかという、ドイツに留学をします。医学では、日本が崇拜しているドイツに行つて、ミュンヘン大学で日本人で初めての医学博士号を取つて帰ってくるんです。そんなとんでもないことをして帰ってきて衛生局長となり、長與専齋の後継者として仕事をしていきます。

そうしているうちに、相馬事件というものに巻き込まれます。後藤新平は福島にいたもんですから、ちよつと肩入れをして、その事件にハマってしまったわけです。結局は収監されてしまつて、牢屋に半年も入れられてしまします。そうしている間に、内務省の衛生局長を剥奪されてしまします。結局は無罪で出てくるんですけども、無罪で出てきた時には、もう局長の身分も何もなくなくなつて。そうした時に、日清戦争の帰還兵の検疫事業の問題が起きてきます。

大陸で、コレラが蔓延している。そこから帰ってくる兵隊をどうするか。実は、西南戦争の時に同じようなこと起きていたわけなんです。後藤新平も、西南戦争の時に、臨時陸軍病院に行つて外科の修行をしているんです。そういうことをやっているので、鉄砲のタマに当たつて死ぬよりも、実は、コレラ

とかが蔓延して、そっちの病気で死ぬ方が多いんだということを実感しているわけです。そこでもって、この日清戦争の帰還兵の検疫事業。西南戦争を体験した人たちが、「これは危ない、何とかしなくちゃいけない」ということで、今は牢屋から出てきたばかりの後藤新平を担ぎ出します。そして、後藤新平。結局はその仕事を引き受けることになりました。

さて、この軍隊検疫の仕事は、世界の歴史に残る、前例のない難事業です。臨時陸軍検疫部の人事が発令されたのは、明治の二十八年の三月三十日です。要は、仕事が始まるのは四月からということになります。部長に児玉源太郎です。その下に後藤新平が事務官長として付きます。ただちに大方針を決定して、似島で一日五、六千人、彦島、桜島で一日二千五百から三千人ぐらい診ましようというところ、三ヶ月でいくわけです。たつた三ヶ月で作らなくちゃいけないというノルマがあつて、めっちゃ

ちやと一生懸命仕事をするわけなんです。「三時間以上は眠らなかつた。」というような仕事をしたそうです。わずか三ヶ月だったんですが、その三ヶ月の間に建物を作つて屋根を葺いて、諸道具一切を運び込んで、電信・電話・電灯の設備をして、加えて、その間にまったく類例のない消毒設備を、ちやんと製造して備え付けているという大仕事をするわけなんです。なおかつ、七月一日に開所する予定だったんですが、一カ月遡つて、結局は六月一日からということになります。四月と五月、たつた二カ月でこれを全部つくり上げるといふ話になつたわけなんです。大戦場のようなありさまになつていくわけなんです。ある部下が新平に「大丈夫ですか。軍隊は帰ってくる。消毒はできないといふのは、大変ではありませんか」といふようなことを聞かされたら、そんな時に、「貴様らのような小豆粒のような肝っ玉で、どうするか。やろうと思つてかかれば、できぬことはあるものか。抜き差しのできぬように

してやらねば、皆の奴らが本気で仕事をしない」というように、答えたんだそうです。

結局は、こうやつて二カ月で出来上がつていくわけですが、大阪の検疫所がほぼ出来上がった頃に、児玉部長が来て、検分をしました。それを案内していた部下が、「いや、こういうふうには作つたんですけれども、ここは、こうした方がいいし、あれは、本当はこうした方が良かったんです。児玉が「黙れ!このようは大仕事は、後藤一人の頭でやらねばできるものではない。貴様ら意見を言うことはならん。後藤の命令通りにやれ!」と一喝したんだそうです。後藤新平への信頼感が伝わってくる言葉です。ほとんど眠ることもなく、眠れなかつたでしょうね。こういうのを作り上げて、最終的には、帰還船が六百隻以上です。検疫人数として、二十三万人の日清戦争から帰ってくる兵隊さんたちを診た。後藤新平としては、検疫するのに悩み

を一つ抱えていました。それを児玉源太郎に相談するわけです。何に困ったかという、「日清戦争の凱旋軍が、意気揚々と帰ってくる。そんな兵隊さんたちが、一医者、『検査を受けてください』と言う言葉で、『はいわかりました』って、素直に従うでしょうか」という危惧です。児玉源太郎は、「よしわかった。俺に任せておけ」と話します。どうしたか。日清戦争帰還兵の中でも、まず第一に帰ってきた皇室の大将さんがいるわけです。その皇室の大将さんを迎えたときに、「これから天皇陛下にご挨拶に行かれるのでしよう。その前に、体をきれいにするために消毒を用意しておきました。もしご希望ならば、それを実施させていただきますが、いかがでしょうか。」というので、その皇室の大将さんが「わかった。貴様の言うとおりにしよう」ということで、消毒をして、天皇陛下の方にご挨拶したという実績を掲げたので、後の人たちは、みんな「右へならえ」です。すごいチームワークとい

ますか、うまいやり方をしたものだと思えます。さて、こういうことを認められて、また内務省の衛生局長に戻ります。日清戦争終結ということ、台湾が日本の領土となるわけですが、それについても、また後藤新平は意見書を出すんですよ。台湾のアーヘン問題について、どうするかというところを。その意見書が伊藤博文の目に留まって「うん、これは使えるな。」ということ、台湾との縁が作られていきます。

台湾総督として、最初は樺山資紀、その次に桂太郎、その次には乃木希典まで行って統治に当たりますが、悉くうまくいきません。なにしろ、台湾では鉄砲を持って待っているわけです。ここに樺山や桂、乃木も、やっぱり鉄砲を持っていくわけです。そうやって抑えつけても、さっぱり治まらない。三代の総督が行って、結局ものにならない。じゃあ、そろそろ外国に売ってしまおうかという話が出た頃に、第四代目として児玉源太郎

にお呼びがかかります。児玉源太郎は、日清戦争の帰還兵のときに一緒にやったあの後藤新平をちゃんと覚えていたわけです。これを片腕として連れて行くというところで、後藤新平に声がかかって、民政長官として一緒に赴任することになります。

ここで、今までの方針をがらりと転換します。「日本の文化のより押しではだめだ。その土地の住民の生活習慣を重視しなくちゃいけない」と。「生物学の原則」だとして、「ヒラメの眼を鯛にしると言ったってできるわけがない」という言葉で表現しています。そして、住民に語りかけていくわけです。鉄砲を持って待っている人達に対して、「この台湾に港を作りましょう。学校を作りましょう。病院を作りましょう。皆さん働いてください。給料を出しましょう」と。ただの搾取じゃなくて、「みんな、この台湾を都市国家にしていきましょう。どうぞ、皆さんの力を貸してください。給料も出しますよ」。後藤新平も直接談判に行きました。最初は鉄砲を持つてた人達が、少しずつ少しずつ、新しい台湾を作ることに加わっていくのです。

新平が赴任した当時の台湾は、日本の統治に反対する住民の武装勢力やゲリラが存在したほか、アヘンの蔓延等、数多くの問題がありました。また、産業らしきものがない上、ペスト、マラリア、コレラ等の風土病の対策は緊急の課題でした。

児玉源太郎と後藤新平は、ゲリラ対策やアヘン対策を講じた上で、港湾開発、道路や橋、鉄道、上下水道等のインフラ整備、学校や病院の建設、ダム建設による灌漑や電力確保、品種改良による産業振興等、日本人の若い能力を結集し、当時の東京に優る近代国家づくりに邁進しました。

児玉、後藤が赴任して以来、インフラ整備や殖産興業など、台湾は見違えるほどの変貌を遂げます。そこには、台湾のために奮闘する男たちの姿がありました。「台湾製糖の父」と言われた新渡戸稲造。台湾駐在わず

か二年ほどでサトウキビ生産の改良に取り組み、台湾の経済発展の礎を築きます。「嘉南大圳の父」と言われた八田與一。烏山頭ダムの建設に心血を注ぎ、嘉南平原を台湾最大の穀倉地帯に変貌させました。磯永吉と末永仁は、「蓬莱米の父・母」と言われます。元来台湾で食べられていたインディカ米から、蓬莱米を生み出しました。「台南上下水道の父」浜野弥四郎。「台湾鉄道の父」長谷川謹介。「台湾人類学の先駆者」伊能嘉矩。西郷菊次郎は、宜蘭河の氾濫を防ぐ堤防を建造し、「宜蘭の恩人」と呼ばれました。一方、近代国家建設のための様々な開発は、原住民の狩場や漁場を失うことでもあり、不幸な事件も多く発生しました。「芝山巖学堂」で危険を顧みず日本語教育を始めた先生が襲われ、惨殺される事件が発生しました。また、タイヤル族のリーダー「モーナ・ルダオ」の指揮のもと、日本人百三十四人が次々に殺害された「霧社事件」も起こりました。多くの悲劇を生みながらも、日本

の若い技術者達は、台湾の近代国家建設のため、命を懸けた仕事に打ち込みました。

そして今、二二八平和公園にある「国立台湾博物館」では、元「児玉総督及び後藤民政長官記念博物館」で、今でも二人の銅像を目にすることが出来ます。現在の台湾は、近代都市とノスタルジーを感じさせるレトロな雰囲気を醸し出す街づくりとが一体化した魅力ある観光地となっています。日本と台湾は、民間団体等、相互の交流も盛んに行われています。

あの東日本大震災の時、全世界から多くの義捐金が日本に寄せられました。最も多くの義捐金が寄せられたのが台湾でした。岩手県は、外国人観光客のうち、七〇八割が台湾の人達なんです。びつくりする割合です。花巻空港が直通ラインを繋げたものですから、そうした環境整備も要因の一つではありますけれども。コロナが流行する前は、うちの記念館にも百〇二百人の台湾の人達が来ました。「よくお出でいただきましたね」とお話しすると、「い

や、今の台湾があるのは、後藤新平、児玉源太郎のあの時のことがあるからなんだよ」というようなことをおっしゃっていただきました。李登輝総統も、実はうちの記念館に来てくれました。

政治では、後藤新平だ」と話して下さっていました。というように、台湾の人達は、とても日本のことを応援してくださっているんです。

日清戦争の十年後、今度のは日露戦争が勃発し、ポーツマス条約で南満州鉄道及び領地租借権を得ました。台湾統治の実績を高く評価された新平が、南満州鉄道の初代総裁として迎え入れることになりました。

南満州鉄道を誰に任せるかということになって、「台湾でやった奴がいるじゃないか。あれを呼べ」ということで呼ばれるわけですが、後藤新平にしたなら、台湾で八年半も暮しているわけですから、行きたくないわけです。そこで説得に来たのは児玉源太郎です。その児玉源太郎が来て、「お前やっ

てみる」と。でも、後藤新平は断ります。ところが面談を終わって帰った後、児玉源太郎が倒れて亡くなりました。児玉源太郎の最後の意思を何としても継がなくてはいけない、という後藤新平の思いで「満鉄総裁」を引き受けることになりました。

南満州鉄道の初代総裁として、台湾と同じように近代国家づくりに努めます。ここでは、狭軌幅線路から広軌幅へ、在来線幅から新幹線幅にたった一年間で替えていきます。石炭の運搬、輸送量が、格段にアップするわけです。そして、この写真にあるような近代都市づくりをしていくのです。

さて、このぐらい活躍していくと、日本の大臣として、ぜひやってくれというような声がかかります。いよいよ、日本の大臣として呼ばれます。

最初は、通信大臣兼鉄道院総裁です。郵便の赤いポストは、実は、後藤新平が提案し指示を出したんだそうです。当時の手紙は、今の通信手段どころじゃなくて、唯一の通信手段ですか

ら、当時は黒い木製のもので、それが燃えてなくなるで大変なわけです。それを燃えないように、そして、街の景観も考えながら、朱塗りの鉄製ポストにした。そして今の東京駅ですが、辰野金吾が設計して作ったわけですけども、その設計内容の指示を出したのも、後藤新平だということです。そうやって内務大臣とか外務大臣等々をやって歴史を重ねていくわけです。

いよいよ、じゃそろそろ総理大臣かといった頃に、皆様ご存知のように、東京市で汚職事件が起きて、もう市長から助役から議長まで、総ざらいで辞めてしまっています。そんな汚職事件のあったこの東京市に、どんな人材が欲しいかというのと、やはり清廉潔白で、なおかつ大胆な政策が断行できるような、そういう大物が欲しいというところで、声がかかったのが後藤新平です。

これも後藤新平がそろそろ総理大臣になるかという頃の話ですから、取り巻きは、とてもやらせられないわけです。周りが絶対引き

受けないでくださいって言うわけです。その東京市長就任の説得にあたったのが、渋沢栄一です。一生懸命になって根回しをしながら、「ぜひ」と頼みます。加えて総理大臣であった原敬も、会って後藤新平の東京市長就任を促すことになりました。時の総理大臣まで動けば予算や裏の話がいっぱい出てくるんだろうと思います。それで、いよいよ東京市長を引き受けるわけです。

東京市長を受けた時に出てきたのが、「八億円計画」というものです。本当はこれ十五年計画なんですけどね。「八億円計画」という言葉が独り歩きして、政府予算が十五億円のときに八億円。「何しやべってんだ、大ボラふきが」ということで、「大風呂敷」っていうのが定着してしまうわけです。ところが、頼みとした原敬が暗殺されてしまいます。そうすると、国の補助予算がつかなくなるわけです。結果的には国の補助がつかなく、改革自体は頓挫してしまいます。

それでも後藤新平は、東



京市長時代に、「自治と教育と衛生」を、それぞれちゃんと、今の東京都政につながるものをやっているんです。こういうことをコンセプトにしたビデオを作りましたので、それは後でお見せしたいなと思っています。そして、東京市政を後の人に任せるということで、大正十二年の四月に辞めてしまいます。

ところが、その年の九月に、関東大震災が起きてしまつて、東京が一面焼け野原になってしまいます。ちょうど内閣を組織しようとしていた最中のところで、内務大臣として後藤新平が呼ばれ、帝都復興も任され、その陣頭指揮を執ることになります。

張つたつて、一ページでさえ、一行載るのさえ、一字の名前でさえ載るのは大変なことですよ。それが八ページも。それだけ東京の人達は、後藤新平が東京復興の恩人だつて考えてくださっているんです。それほどの辣腕を揮うわけですが、十二月の二十七日に虎ノ門事件というのが起きるんです。この事件が起きたために、内閣総辞職になるんです。だから、後藤新平が陣頭指揮を執つたのは、九月から十二月までのたった四か月です。それにもかかわらず、後藤新平は今でも小学校の教科書に八ページに亘つて恩人だつて書かれる。私が思うに、理由の一つはさつき言った東京復興の青写真をすでに描いていた。それを後藤新平の決断で速やかに出した。もう一つは台湾で、満州で、その当時の東京以上の近代都市造りをしてきた。そういう部下たちがいるわけですよ。それをごっそり連れてくるわけです。だから自分が辞めても、自分の思いをかなえる部下たちがいるわけ

です。それがあつたからこそ、八ページがあるのではないでしょうか。後藤新平は、自分は「朝敵の子」と言われて、本当はもう出世することも、そんなことを考える余地がなかったにもかかわらず、安場保和とか、児玉源太郎に引き立てられ、そうやって、今ある自分を育ててもらつた。だからこそ、自分が育ててきた人間を、そうやって活用していくわけです。常に、「人を育てる」ことを後藤新平は考え、実践してきたんだらうなと思います。

虎ノ門事件で、内閣総辞職になつて、その後政界から身を引きます。身を引いた後、何をやつたかという点、東京市長時代に総裁を引き受けた、「少年団日本連盟」、「ボーイスカウト」を一生懸命やります。子ども達のために、「人のお世話にならぬよう 人のお世話をするよう」として報いを求めぬよう」というようなことを語つて聞かせます。子ども達も後藤新平が大好きです。後藤新平がロシアに行くことになつた時に、全

国のボーイスカウトから、もち米を三粒ずつ集めてそれで赤飯を作つて、それを後藤新平が泣きじやくりながら食うわけです。「こんなうまい赤飯は食べたことがない」と。子どもが大好きで、子どもも後藤新平が大好きです。

七十歳の古希のお祝いの時に、後藤新平の邸宅にボーイスカウトが集まりました。千五百人です。千五百人が集まつて何をしたか。後藤新平のことを歌つた歌を歌います。「後藤総長弥栄の歌」です。「僕等の好きな総長は 白いおひげに鼻眼鏡 團服つけて仗もつて いつも元気で ニーコニコ」という歌で、三番まであるんですよ。新平のための歌なんです。それほど大きな存在だったもんですから、後藤新平が亡くなつた後、ボーイスカウト総裁の後を引き継ぐ人がいなかったのです。やつとしばらく経つてから、引き受けた人が出てきました。誰だと思いませんか。斎藤實です。

東京市長時代に描いていた東京市の改造計画を、すぐバーンと出したわけですよ。国民がびっくりするぐらいの速さと決断で、それを出した。後藤新平記念館には、東京の小学校の教科書があるんですが、その教科書に八ページも、「復興の恩人」だということの後藤新平が書かれています。八ページです。我々、皆さんもそうですが、なんぼ頑

くても、自分の思いをかなえる部下たちがいるわけです。後藤新平がロシアに行くことになつた時に、全

講演で岡山に向かう列車の中で、三度目の脳溢血で

誕生から亡くなるところまでお話し申し上げました。後藤新平記念館の隣に「後藤伯記念公民館」という建物があるんです。後藤新平の名前がついた建物です。次は、この公民館の由来、物語をお話しします。

関東大震災で世の中がかしくなつて、虎ノ門事件が起きたつて言いました。虎ノ門事件を起こしたのは難波大助という青年です。難波大助が当時の摂政、大正天皇が体調が悪くなつてますから摂政時代に入つていて、後の昭和天皇が帝国議会に来て挨拶します。議会議会に行くために虎ノ門まで車がさしかかつた時に、その車が襲われます。難波大助の仕込み式の散弾銃です。

撰政は怪我しなかつたんですけども、一緒に乗っていた侍従が怪我をします。そんな大それたことが起きたもんですから、内閣が総辞職をしたんです。

いろんな責任の取り方があります。難波大助のお父さんは、衆議院議員でした。息子がそんな大それたことをしてかしたということ、昔の武士のように、家を竹矢来で囲んで謹慎生活をし、食べるものもろくに食べないで、自分の息子の審判を待ちます。息子は翌年の十一月に死刑が執行されます。その半年後にお父さんは亡くなります。お兄さんも会社勤めをやめてやはり謹慎生活をします。難波大助は、山口県の出身でした。山口県の知事は、二カ月の減俸です。京都に立ち寄ったというだけで、京都府知事も譴責処分です。難波大介の出た村ではお正月行事があつたのを全部取りやめました。難波大助の担任の先生、校長先生は仕事を辞めました。いろんなところで、いろんな責任を取つたのです。だから、内

閣総辞職は当たり前の時代です。加えて、警視庁の長官はクビです。更に、現場責任者である警務部長もクビになりました。その警務部長が「正力松太郎」だったんです。

クビになってしまつて、仕事がない時に、ある新聞社から声がかかります。関東大震災で機械が壊れてしまつて、経営も斜陽になつてしまつた。そんな時に声をかけられます。「十萬円でやつてみないか」って。今の十萬円とは訳が違いますから、単位を変えた方がいいんだらうと思います。自分ではどうしようもないので、上司の上司であつた後藤新平のところを相談にいきます。「二週間後に来い」と言われ、二週間後に行つたら、十萬円を耳を揃えて待つていました。「新聞経営というものは難しいと聞いているから、失敗したら返さなくていいぞ」という言葉までかけてもらいました。正力はそれを糧にして、新聞社を立て直して、今の朝日新聞と肩を並べる「読売新聞」を再興します。

後藤新平の晩年の頃ですから、後藤新平はもう間もなく亡くなります。一カ月後に息子の一蔵さんに会う機会がありました。正力はその時初めて聞きます。「あなたのお金をどうやって用立ててくれたんでしようね」と。

後藤新平は羽振りがよかつたものですから、スポーツサーがいっぱいいると思つていたのではないのでしょうか。そしたら、意外な言葉を聞きます。「いや、あの時は大変だったんです。家の土地を担保にして用立てた金だったんです。「ちゃんど返したからよかつたんですけれど、それを返さなかつたら、それこそ後藤新平一家離散みたいな話なわけです。「俺のためにそこまでしてくれたのか」、正力松太郎は感激で男泣きに泣くわけです。「恩を返したくても、もう既に後藤新平は亡くなつています。せめて、後藤新平の生まれた水沢の地に後藤新平の信念であつた『自治』が実現できるような建物を造りたい」ということで、出来上がったのが昭和十六年十一月三日。後

藤伯記念公民館です。建設費十五萬円、維持費として五萬円。トータル二十萬円で。恩の倍返しです。

昭和十六年十一月三日という、ちよつと歴史をなぞると、あと一カ月もすると、「ニイタカヤマンボレ」「トラトラトラ」の世界です。だから簡単にこんな建築許可は下りないのです。正力松太郎は、その建築許可を出す商工省総務局に直談判に行きます。最初は「公会堂」を造りたいと言います。日比谷公会堂の公会堂のイメージは、ダンスをしたり、音楽を聴いたり、文化を楽しむところでしょう。「まかりならぬ」と断られます。「では、何だった方がいいですか」って、正力は聞くわけですよ。総務局長は、「練武館ではどうだ」というわけです。体を鍛える方の練武場の練武です。今度は正力松太郎が、「いやいやそんな軍部に尾っぽを振るような、そんな名前では困る。もっと後藤新平の信念である自治とか、教育とか、そういうものが実現できるような建物を造り

たい。だから、名前を何とか考えてくれ」と粘ります。その時の総務局長もよく一生懸命対応したもんだと思います。普通は門前払いでしょう。それで考えに考え、ひねり出しました。ひねり出して作り出した言葉が「公民館」です。初めて出てきた言葉です。だから、日本で初めての公民館はここだ、ということ、水沢の人達は今でも大切に使っています。今、公民館の名称が、全国で、地区センターとか振興センターとかと変わつてきています。水沢も同じように、他の全部が変わつたのですが、ここだけは残しているんです。対応してくれた総務局長、たいしたもんです。よくそこまでしてくれたもんだと思います。当時の商工省総務局長。それは、政治家になる前の行政官、「椎名悦三郎」だったんです。

機 築八十年になります。機会があればどうぞ訪れてみてください。以上で終わります。ご清聴ありがとうございました。